

05

第5章 海外旅行

- 身近な事例から為替の仕組みを学ぶ

本講での学習のゴール（講義後に学生は以下の事項ができるようになっている）

- 国によって異なる通貨が使われていることを理解する
- 為替レートを調べて、海外旅行中の予算額を現地通貨であらわすことが出来る
- 海外での支払いのために多様な方法があること、それぞれにメリットとデメリットとがあることを理解し、目的にあった方法を選択することができる
- 為替レートの決まり方について理解を深める

学習の狙い

ヒト・カネ・モノ・情報がグローバルに移動する現代社会において、為替の仕組みについての理解は、国際的に活動する人だけでなく、国内だけで生活をする人にとっても、賢明な判断をするうえで極めて重要である。海外旅行でのお金の支払いという身近な問題から、為替レートの決まり方まで、自分の言葉で説明できる能力を身につける。

この章の概要

海外旅行のプランを考えるとところから始めて、現地での支払い方法の選択、為替レートの決まり方まで考えを深める。

[Case 5-1]

次の条件を満たす海外旅行のプランを考えてみよう。

- ・訪れる国は1つ。あなたが最も行きたい国を選ぼう。
- ・滞在期間は1週間。
- ・航空券は国内で購入し、ホテルや食事、移動は全て自分で手配し、支払いも自分で行う。

実際に自分が行きたい海外旅行のプラン、または家族や友達、恋人が喜ぶような海外旅行のプランを考えるようにしよう。

- Q1. 訪れる国はどこか。
- Q2. 海外旅行に必要な予算（航空券代や空港までの交通費などは除く、現地での支出の予算）は日本円でいくらか。
- Q3. その国で使われている通貨は何か？
- Q4. 為替レートを調べてみよう。例:米ドルの場合、1ドル???円
わからない場合は下のサイトが使える。<http://ja.exchange-rates.org/>
- Q5. Q2での予算は現地通貨ではいくらになるか。

Q6. 一緒に考えてみよう。昼食の予算は現地通貨でいくらになるか。

キー概念

□ 為替レート

キー概念解説

為替レート： 外国通貨の価格と考える。例えば日本国内でドルを売り買いしたい人たちは大勢いる。売る人は高く売りたいが、他の人より高く売ろうとしたら買ってもらえない。買う方は安く買いたい、他の人より安く買おうとしたら売ってもらえない。売り手も買い手も競争があることで、売買の価格はある水準に収束していく。その水準がドルの為替レートである。

Q5 の解説

ドルで説明

1 ドル 90 円の場合、日本円で 100,000 円の予算を立てた場合、

1 ドル : 90 円 = X ドル : 100,000 円

となる X を求めることになる。

$1/90 = X/100,000$ が成り立つから、両辺に 100,000 をかけて X を求めると

$X = 100,000/90 =$ およそ 1111.11

つまり、1111 ドル 11 セントとなる。

同様に昼食代を 1 回 1000 円とすると、11 ドル 11 セントが目安となる。

(海外では物価の感覚がなくなってしまう、予算オーバーとなってしまう人もいる。一方で日本の物価感覚にとらわれすぎて、特に円安局面では何も買えない、貴重な機会なのに楽しめないということも。現地の物価水準を知ることも大事。)

参考：

<http://www.economist.com/news/finance-and-economics/21571165-currency-wars-burgers-verdict-bunfight>

[Work 5-1]

Q6. 為替レートの変化が予想されている場合、どのように準備をするのがいいか？ユーロ圏に旅行に行くとして、考えてみよう

現在 1ユーロ 120円

将来 1ユーロ 160円

円は高くなるのか安くなるのか？

為替レートの変化が予想されている場合、どのように準備をするのがいいか？

Q7. 宿泊、食事、買い物など現地では様々な出費があります。現地での支払いにどのような方法があるだろうか。

Q8. 現金、クレジットカード(後払い)、国際デビットカード(即時払い)、海外専用トラベルプリペイドカード(前払い)に限定して、それぞれのメリットとデメリットをあげてみよう。特に紛失による損害リスク、利便性、為替リスクなどを考えてみよう。

Q6の解説

為替レートの理解を確認する問題。ユーロの価格が現在 120円 で将来 160円 に上がるということは、円の価値が下がることを意味する。モノを買うときにはなるべく安く買った方がいい。それは外国通貨を買う場合も同じ。現在の方がユーロは安いことから、今のうちに買っておいた方がよいということになる。

キー概念

- 紛失による損害リスク
- 利便性
- 為替リスク

キー概念解説

紛失による損害のリスク： 海外で財布を紛失する、盗難にあう事例は決して少なくない。紛失や盗難にあわないように細心の注意を払うことはもちろんだが、万が一、紛失や盗難という事態に遭遇したとしても困らないようなサービスがあることを知っておいた方がよい。現金は紛失・盗難に遭っても戻ってこないのでしたら損害を覚悟しなければならない。これに対しクレジットカードは紛失しても、損害を回避することができる。*クレジットカードは手元に来たらすぐにサインをする。サインは真似されないように注意。クレジットカードは紛失にあった際の連絡先を控えておく。

利便性： 小銭の持ち運びなどのわずらわしさを考えるとカードでの支払いは便利。一方で、現金しか受け付けない商店や自動販売機、チップの支払いのことを考えると、カードだけで

は不便なこともあるので、小額現金とカードなどを組み合わせて所持する。なお、Visa などの大手国際ブランドカードで現地の金融機関 ATM で現地通貨を引き出すことも出来る。

為替リスク： 為替レートの変動によって支払い額が変化してしまうリスク。クレジットカード払いの場合、カードの利用データが決済センターに到着した日のレートで円貨換算が行われる。一般的には支払った日から数日以内時点のレートよりもあとに円貨換算が行われるが、例外的にカードの利用データが決済センターに到着するのに日数を要する場合がある。短期間には為替レートが大きく変化することはまれだが、支払いをした後で為替レートが円安に変化した場合には注意が必要。また、最近では海外の店頭で日本円での支払い金額を提示される場合がある。日本円での支払いの場合は、通常お店側で手数料が上乗せされている。このような場合には店頭で換算レートを確認し、換算レートが高いと感じられた場合には「現地通貨で支払う」ことを選ぶことができる。現地通貨で支払う場合は、カード発行会社の規定している換算レートで日本円に換算され後日請求される。

[Work 5-2]

Q9. 為替レートが変化するのはどのようなときだろうか。

自民党の安倍政権となってから円安が進んだ。円が安くなったのはなぜだろうか。その理由について、考えてみよう。

答えが見つからないグループは、次の問いを考えてみよう。

一般に為替レートが上がるのはどのようなときか

為替レートが下がるのはどんなときか

為替レートはどのように決まっているのか

キー概念

- 為替相場（レート）の決定
- 購買力平価説

キー概念解説

為替相場（レート）の決定： 為替レートは市場での需要と供給で決まる。円を買いたい（外貨を売りたい）人が増えれば円高に、円を売りたい（外貨を買いたい）人が増えれば円安になる。

購買力平価説： 同じものであれば、なるべく安く買いたいものだ。あるモノの値段が東京と比べて大阪が 10 倍高かったら、それを東京で買って大阪で売ることによって利益を上げられる。このような取引を裁定取引というが、裁定取引が起こると、東京では需要が増えて、大阪では供給が増えるので、結果として東京では価格が上がり、大阪では価格が下がって価格の差

はどんどん小さくなっていく。裁定取引が究極まで進むと、同じモノであれば、どこでも同一の価格になるはずである。経済学ではこれを一物一価の法則と言う。実際には、輸送のコスト等もあり、完全に価格が一致することはないが、それが成り立つ状態に近づく力が働く。

この考え方を通貨の異なる複数の国の物価に当てはめたのが購買力平価説。日本では 300 円で売られているハンバーガーがアメリカで 3 ドルだとする。1 ドル 50 円だとアメリカのハンバーガーは 150 円ということになり相当割安である。このとき、1 ドル 100 円であれば、2 つの国のハンバーガーの価値は同じになる。一物一価の法則を当てはめると、日本でもアメリカでもハンバーガーが同じ価格になるように 1 ドル 100 円に決まるのではないかと考えることができる。これが購買力平価説の考え方だ。

つまり購買力平価説とは、あなたのお金の購買力（あなたのお金で買うことができるモノの量）が、どこの国でも同じになるように、為替レートが決まるという考え。

世の中には色々なものがあるのでハンバーガーだけを見てはいけなし、貿易ができないものであれば、価格を等しくするような力が働かないので購買力平価説が成り立つ保証はない。しかし、購買力に大きな差があれば、人は安い国でモノを買い、高い国で売ろうとするはずである。そして、変動相場制の下では、そのような貿易は購買力を等しくするように為替レートを調整すると考えられる。

Student ID:

名前:

提出期限 月 日

[Homework 5]

あなたが海外旅行に行く場合、現地での支出予定の金額の何%相当を現金で用意するか。また、その理由を説明しよう。